

2020年05月19日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【アフター・コロナ問題は、バラ色ではない、と考えます】

コロナウイルス問題に関して、マーケット(金融市場、外国為替市場、商品市場など)も、落ち着きを取り戻しつつある様子だ。

日本でも、緊急宣言が一部解除になり、海外でも、様々な規制が緩やかになっている。

ドイツでは、無観客試合ながら、ブンデスリーガ(サッカー)の公式試合が行われた。

しかしながら、今後のことを、漠然と思い浮かべると、コロナウイルス問題が起こる前の状況に戻ることができるのか、疑問に思っている。

日本では、まだ、プロ野球やプロサッカーの公式試合の開催は行われていない。

もう少し時間が経過すれば、それなりのスケジュールで開催、再開が発表になるのだろうが、果たして、コロナウイルス問題発生前のように、多くの観客が集まるのだろうか？

もちろん、それ相応に、観客はライブの試合を見たい、と願うのだろうが、現在の状況では、以前と同じシステムで公式試合を行えば、コロナウイルスの第2次感染拡大が起こるのは必至だからだ。

試合会場の観客席は、感染を拡大させる典型的な「密」の状態。

感染しても構わないと考える人は、あるいは、その程度のリスクは仕方がない、ライブの試合が見たい、と考える人は、スタジアムに足を運ぶのだろうが、2次感染を避けたい、と考える人たちは、会場に向かわない。

居酒屋にしても、コロナウイルス問題が起こる前の状況には、簡単には戻らないのではないかな？

居酒屋で飲食をするのは、大勢や少人数にかかわらず、その集まったグループで、飲食を共にし、会話を楽しむためであり、席を離れて(ソーシャル・ディスタンスを保ち)、小声で話すのでは、楽しくもないし、そもそも会話にならない。

もちろん、それぞれの立場で、つまり、居酒屋を経営する人はその立場で、居酒屋のお客さんならば客の立場で、どうすれば良いのか、工夫をすることになるのだろうが、簡単ではないのだろう、と危惧している。

つまり、コロナウイルス問題が終息すれば、以前のように、景気が回復する、という訳には行かないのだろう、と心配しているのだ。

ましてや、今のところ、特効薬とワクチンは、まだ無い。

特効薬とワクチンが開発されれば、それなりの効果は期待できるのだろうが、それらが完成する前に、様々な業態が変化してしまうと、状況は複雑になる、と考える。

これから、2、3 か月の間に、それぞれの業界で、倒産が増える、と予測できる。

そうなると、失業者が増加し、景気も悪化することが想像できる。

つまり、今の世の中は、コロナウィルス問題が終息した後に、まだ、幾ばくかの期待感が残っているように思うが、また、マスコミの論調も、過度に悲観的にならないようにしている様子だが、個人的には、非常に、心配している。

規制が緩められれば、コロナウィルスの第 2 次感染は起こるに決まっているし、倒産が増えれば、景気は悪化するに決まっている。

来るべき景気悪化や、これから起こる諸問題に対して、それ相応の覚悟をしておく必要があるのではないか、と考える次第だ。

+++++

(2020 年 05 月 19 日東京時間 14 : 50 記述)